



日本語の歴史的典籍の
国際共同研究ネットワーク
構築計画

(略称：歴史的典籍 NW 事業)

令和2年 6月改訂版



国文学研究資料館 所蔵資料
光琳画譜
享和2(1802)年 刊本
光琳風の画人中村芳中の色摺り絵本
<https://doi.org/10.20730/200010512>

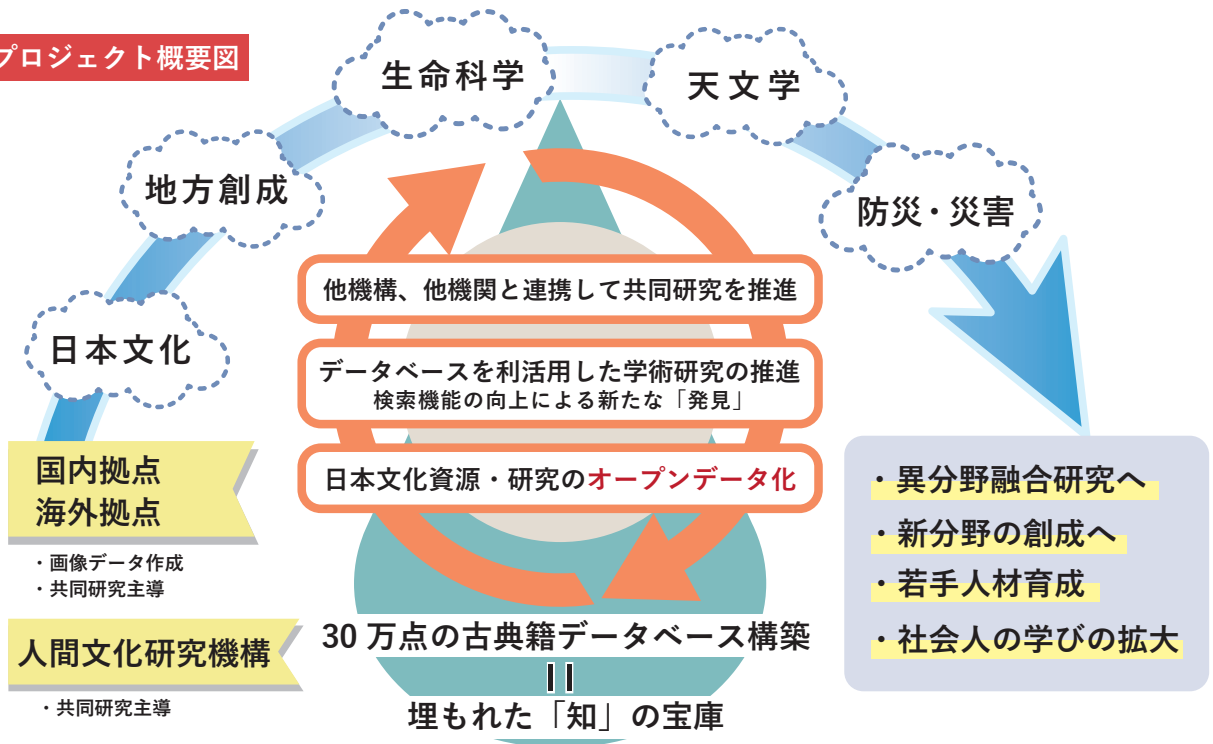
「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」とは？

本事業は、当館が中心となり、国内外の大学等と連携して、古典籍約30万点の全冊画像化を行い、当館が構築してきた古典籍の書誌データベースと統合して、自在に画像を検索できるデータベース「新日本古典籍総合データベース」という研究基盤を作り、その画像を用いて国際的な共同研究のネットワークを構築するものです。

こうした古典籍の画像化は、文化財危機（原本資料の破損・劣化、自然災害による消失等）への対応ともなり、文化財の後世への継承にも貢献することになります。

本事業における共同研究では、データベースを活用し、人文学分野にとどまらず、自然科学分野までを包括する文理融合による国際的な規模での共同研究を推進してまいります。

NIJL-NW プロジェクト概要図



実施計画

2014年度(平成26年度)から2023年度(令和5年度)までの10年間で実施します。国際的に共同研究を展開し、併せて共同研究のテーマと連動させながら古典籍に関するデータベース「新日本古典籍総合データベース」の拡張を進めていきます。古典籍画像は、分野別に収集し、順次公開する予定です。

1 日本語の歴史的典籍DBの構築

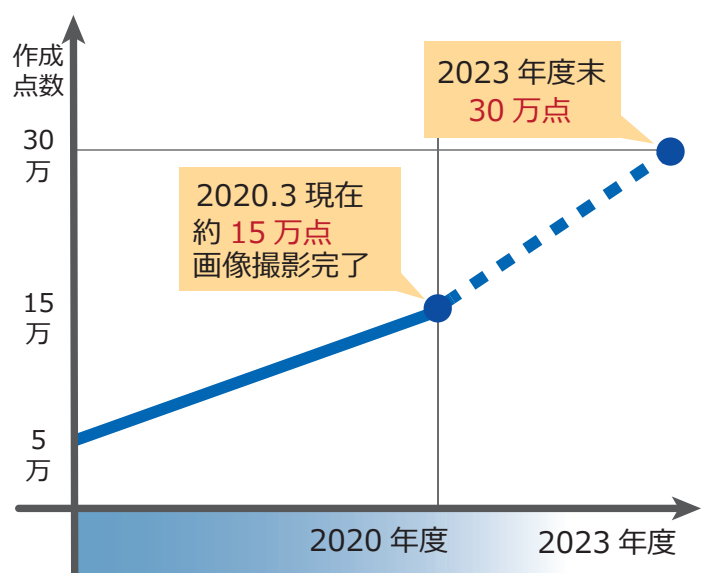
- 30万点の画像データの作成
- 新日本古典籍総合データベースの運用
- 検索機能の向上化・多言語化対応

2 国際共同研究ネットワークの構築

- 異分野融合を踏まえたネットワークの拡充

3 国際共同研究の推進

- 異分野融合研究の醸成
- 「総合書物学」の創出
- 文献観光資源学研究の推進

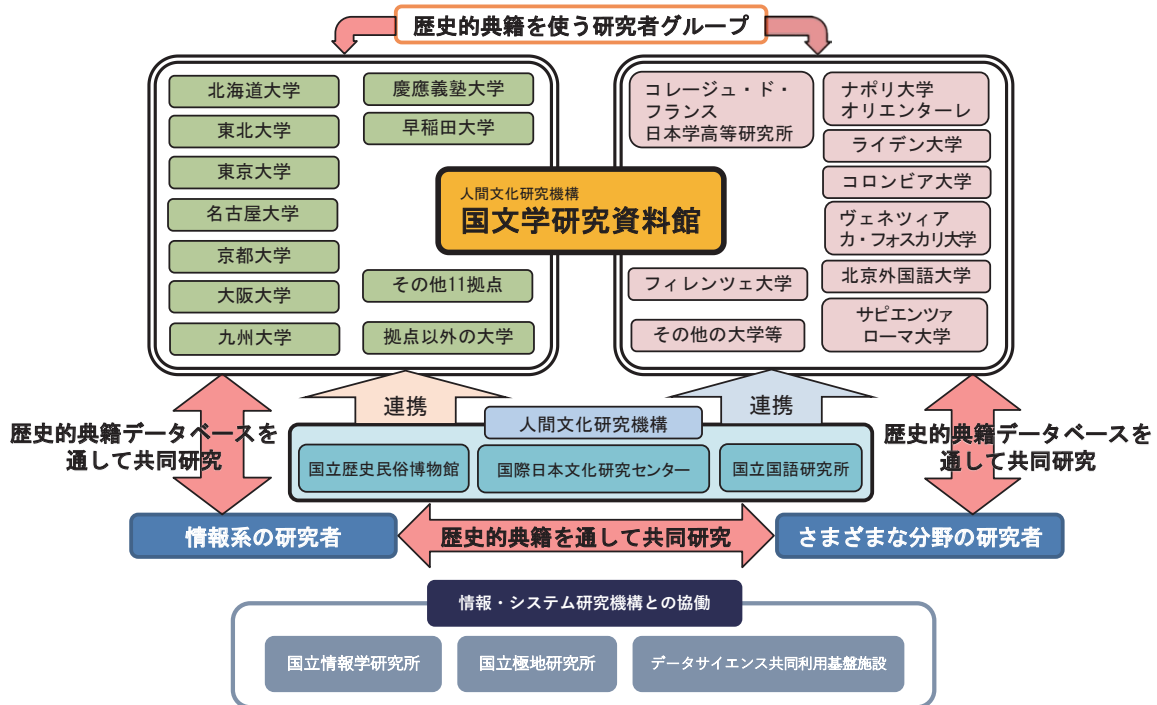


30万点の画像データ作成計画

実施体制

2014年（平成26年）4月に、当館に本事業を推進するために古典籍共同研究事業センターを設置しました。当館のほか、人間文化研究機構の各機関や、国私立大学に設置する20拠点及び国内外の研究機関、並びに国立情報学研究所、国立極地研究所等と連携して本事業を実施しています。

古典籍共同研究事業センターには、センター運営委員会、日本語歴史的典籍ネットワーク委員会、国際共同研究ネットワーク委員会、拠点連携委員会、資料活用連絡協議会を置き、学識経験者や研究者コミュニティの意見を踏まえて、本事業を推進しています。また、センター運営委員会の下にNW事業実施委員会を置くことで、当館の全ての教員が本事業の全体を把握し、役割と責任を分担しつつ事業を推進していくための体制となっています。



国際共同研究ネットワークのイメージ

2019年度の画像情報作成状況（総点数 約3万7千点）

●拠点大学：デジタル撮影

北海道大学（産業、理学）、東北大学（宗教、医学、理学）、筑波大学（宗教、風俗、地理、言語）、京都大学（宗教等）、大阪大学（医学等）、神戸大学（地理、医学、理学等）、広島大学（文学）、九州大学（医学等）、同志社大学（文学等）、関西大学（文学）

●拠点大学：デジタル撮影（内製）

筑波大学（言語、宗教）、名古屋大学（医学、文学）、京都大学（宗教、歴史、文学）、広島大学（文学）、九州大学（理学）、東京大学（産業、文学）

●専門性の高い分野別収集：デジタル撮影

実践女子大学（文学）、茨城大学（歴史）、専修大学（文学、思想）、中津市歴史博物館（医学）、東京書籍附設教科書図書館東書文庫（教育）、日本体育大学（武学武術）、たつの市立龍野歴史文化資料館（諸芸）、国文学研究資料館（歴史）、宮内庁書陵部（歴史）、東京海洋大学（産業）、ポーラ文化研究所（風俗）

●専門性の高い分野別収集：デジタル撮影（内製）

東京藝術大学（芸術）、東京書籍附設教科書図書館東書文庫（教育）、清光山西嚴寺（宗教）、一橋大学（産業）、日本体育大学（武学武術）、ポーラ文化研究所（風俗）、国文学研究資料館（芸術、歴史）、研医会図書館（医学）、横浜国立大学（教育）

●マイクロフィルムからの画像作成

東北大学附属図書館所蔵マイクロフィルム（武学武術、理学、数学）、宮内庁書陵部所蔵マイクロフィルム（歴史）、当館所蔵マイクロフィルム（文学）

●既存画像の提供

東京大学（教育、芸術）、小泉吉永氏（往来物倶楽部）（教育）、信州大学附属図書館（地理）、日本学士院（理学等）、大阪大谷大学図書館（文学）、仙台市民図書館（歴史等）、秋田大学附属図書館（産業）、奈良県立図書情報館（地理）、国立国会図書館（全般）

※ 古典籍の所蔵者の皆様にデジタル化の際の参考にしていただくため、古典籍のデジタル化（撮影）マニュアルをクリエイティブ・コモンズ表示 4.0 国際ライセンス（CC BY）の下に公開しました（2018年4月）。

新日本古典籍総合データベースの公開

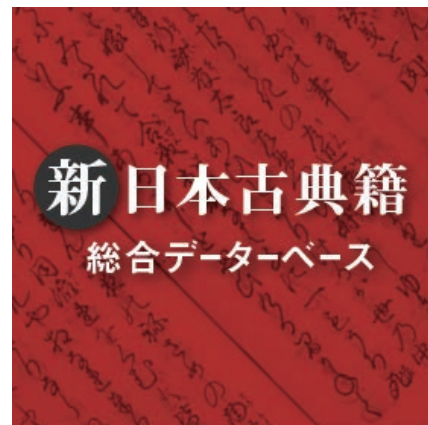
歴史的典籍 NW 事業の推進基盤となる「新日本古典籍総合データベース (Database of Pre-modern Japanese Works)」は 2017 年 (平成 29 年) より公開されています。

文学分野のみならず医学・理学分野等あらゆる分野の古典籍画像も多く含まれており、人文学以外の研究者との異分野融合研究を醸成する研究基盤として、国内外の大学等と連携のもと、今後は古典籍 30 万点を擁する大規模画像データベースとなる予定です。

新日本古典籍総合データベースの利用の手引きを
こちらの QR コードからダウンロードできます。



公開サイト <https://kotenseki.nijl.ac.jp/>



新日本古典籍総合データベースの概要と特長

唯一の日本古典籍ポータルサイトとして、当館が長年蓄積した豊富な書誌と国内外のさまざまな機関が所蔵する古典籍のデジタル画像が利用できます。

Point1 探しやすい

タイトルやキーワードでの検索のほか、画像に付けられたタグ、本文テキスト、おすすめキーワード、ピックアップコンテンツなど、多彩な検索ができる！

検索トップページ



<https://kotenseki.nijl.ac.jp/>

Point2 引用しやすい

電子データに付与される国際的識別子、DOI (デジタルオブジェクト識別子) の採用により、永続的なアクセスを保証。論文などに引用したいときに便利！

DOI

<https://doi.org/10.20730/200021913>

変換

新日本古典籍
総合データベース

<https://kotenseki.nijl.ac.jp/biblio/200021913>

データベースの URL が変わっても DOI は
変わらず、リンク切れが発生しない。



<https://www.doi.org/>

Point3 活用しやすい

デジタルアーカイブの新しい規格、IIIF (International Image Interoperability Framework: トリプルアイエフ) を採用。異なるデジタルアーカイブ間での画像共有や再利用が容易！

画像ビューア



<https://iiif.io/>



人間文化研究機構 国文学研究資料館

古典籍共同研究事業センター

〒190-0014 東京都立川市緑町 10-3

【電話】050-5533-2988 (FAX 042-526-8883)

【Email】cijinfo@nijl.ac.jp

【公式サイト】<https://www.nijl.ac.jp/pages/cijproject/>



<https://twitter.com/nijlkokubunken>



<https://www.facebook.com/nijlkokubunken2/>

